

2018年度 第2回 常務委員会議事録

日 時:2018年9月13日(木)17時~19時

場 所:(株)国際文献社(高田馬場会議室)

出席者:久田健一郎, 高橋 修, 青木秀則, 伊藤 孝, 小森次郎, 清水政義, 宮下 治, 吉本直弘,
米澤正弘(計9名)

議 題

1. JpGU 担当等について

JpGU 側からの打診, および本学会からの返答状況等, 事実確認の上, 対応することとした。

2. 役員選挙の電子投票について

2019年の電子投票実施に向け, 会員への周知, メールアドレスの登録促進等, 体勢づくりを整えることとした。まずは, 急ぎ, 会員宛往復葉書の文面案を作成する。

3. 全国大会支援委員会の新設について

毎年開催される地学教育学会全国大会の準備・運営の効率化・簡素化を鑑み, 全国大会支援委員会を設置することとした(日本地学教育学会々則, 第九条4)。本委員会では, 主に講演予稿集の作成, 出展業者との連絡等を担うこととする。

4. 編集委員会規則の一部改正について

編集委員会の継続的な円滑運営のため, 同規則の一部改訂を行うこととした。詳細は以下のとおりである。

旧)第5条 委員長は委員会を指揮し、編集業務を統括して編集の責任を負う。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるときはその職務を代理し、委員長が欠員のときはその職務を行う。

新)第5条 委員長は委員会を指揮し、編集業務を統括して編集の責任を負う。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故等の不都合があるときはその職務を代理し、委員長が欠員のときはその職務を行う。

5. 次回以降の常務委員会の会場について

次回以降の常務委員会の会場候補として, 平成帝京大学中野キャンパス, 順天堂大学, 筑波大学東京キャンパス文京校舎が挙げられた。状況に応じて, 会議ごとに決定いくこととした。

6. 東レ科学賞への学会の対応について

全国大会時に要請があった東レ科学賞への学会の対応について議論した。募集要項, 申請状況等を精査の上, 対応を継続協議することとした。

7. 「学会賞推薦委員会」設置についてについて

上記6と同様, 大会時に要請があった学会賞推薦委員会設置について議論した。現在, 議論中の若手を対象とした新たな賞を含め, 学会としての各種表彰の性格・体制を整理した上, 継続

審議することとした。

8. 学会の財政健全化について(継続審議)

印刷態『地学教育』の年あたり発行回数を変えることについて、財政的・心情的な面から検討を行った。また、印刷態『地学教育』の年あたり発行回数を減らした際の会員メリットの確保について議論した。今後、『地学教育』の完全電子ジャーナル化も視野に入れつつ、学会の最重要課題として議論していくこととした。

9. 会勢について

会勢を確認した。入退会状況は以下のとおりである。

入会者・学生会員 仲宗根峻也(琉球大学大学院), 本間龍之輔(筑波大学大学院), 植村元裕(筑波大学大学院)

入会者・正会員 長谷川宏一(駒澤大学高等学校), 原 秀夫(つくば科学万博記念財団), 中西博亮(みえ夢学園), 松本誠司(兵庫県立東灘高等学校)

退会者 大鐘卓哉

報告・話題提供

1. 茨城大会報告および事後処理進捗状況について

青木大会実行委員会委員長より、全国大会茨城大会の詳細と事後処理に関する進捗状況についての報告があった。

2. 31年度センター試験得点調整について

青木委員より、31年度センター試験の得点調整についての情報提供があった。

3. 2018年度日本地学教育学会評議委員会議事録(案)について

高橋副会長より、2018年度日本地学教育学会評議委員会議事録(案)について紹介があった。

4. 各種常置委員会から

編集委員会吉本委員長より、『地学教育』71巻2号の準備状況、現在の投稿状況等について、また論文の審査の観点と基準について整理していく方針との報告があった。

広報委員会宮下委員長より、「全国中学校理科教育研究会兵庫大会8月8日(水)～10日(金)」にて、本学会パンフレット(780部準備)を参加者に配布、また残部が出た際には、兵庫県内の中学校理科教員へ配布の手配した旨、報告があった。

5. その他

久田会長より、2018年度の本学会海外巡検(台湾)について、準備・応募状況の紹介があった。現時点で本学会会員12名から応募があり、当初計画通り実施予定である。

次回、2018年度第3回常務委員会は、2018年11月13日(火)、順天堂大学にて開催予定。